

## 有明海・八代海等の環境等変化（生物（ベントス））

平成 26 年度の夏季、冬季における底生生成物の水平分布状況は以下の通りであった(図 1)。

有明海では、種類数は湾奥から湾口寄りが多く、個体数は湾口寄りで多い傾向であった。湿重量は湾奥で大きかった。八代海では、種類数、夏季の湿重量は湾奥、湾口寄りが多く、個体数は湾口寄りで多い傾向であった。橘湾では、種類数、個体数および湿重量は湾奥より湾口寄りが多い傾向がみられた。

また、有明海北西部における 1989 年夏季と 2000 年夏季の調査によると、全マクロベントス（小型の底生動物）の平均密度は 3,947 個体/m<sup>2</sup>（1989 年）から 1,690 個体/m<sup>2</sup>（2000 年）に減少しており、これは主に二枚貝類の減少（特に住之江川沖海底水道）によるものであった（図 2）。

底生生物の経年変化については 4 章で海域ごとに詳述している。

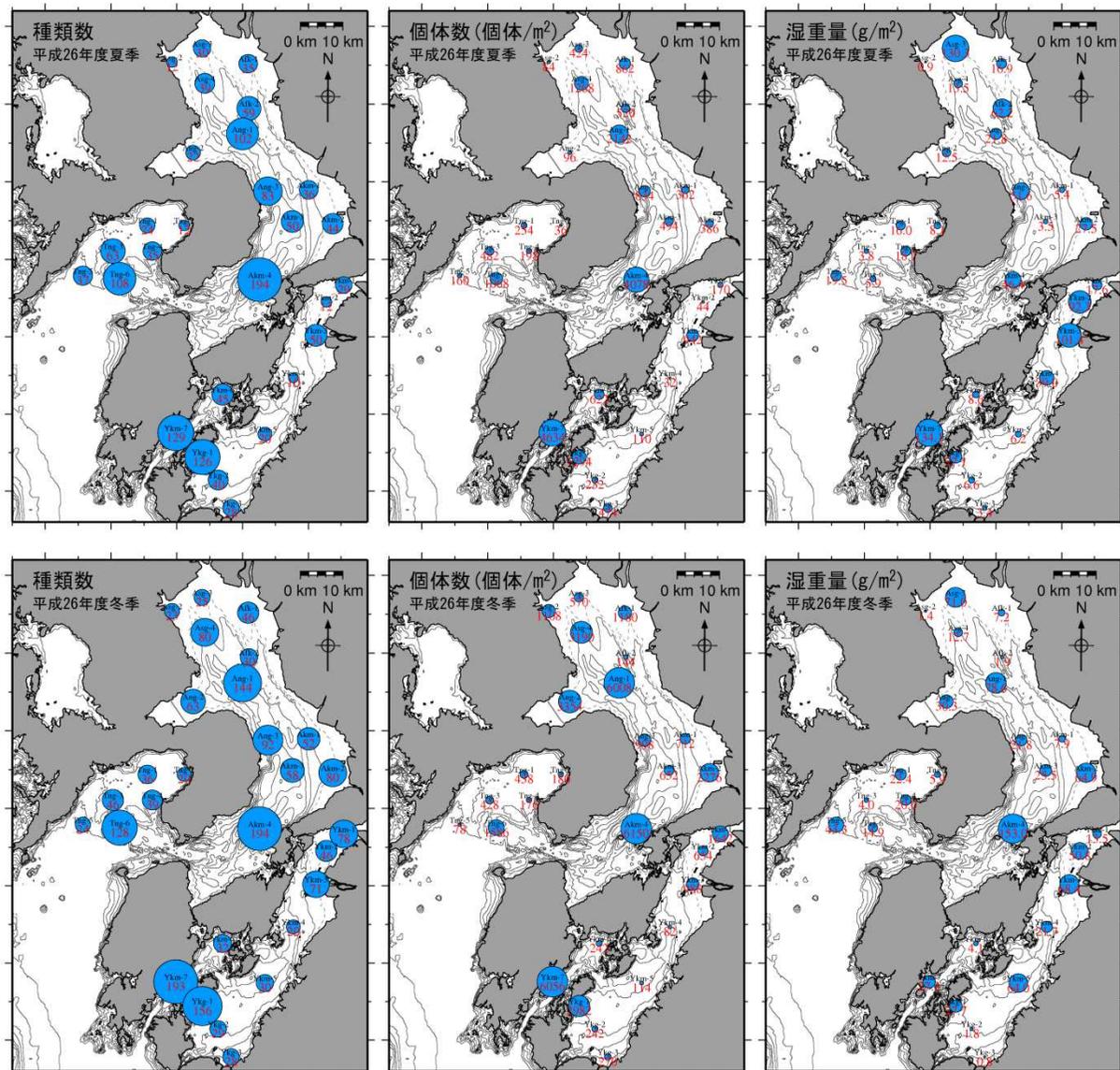
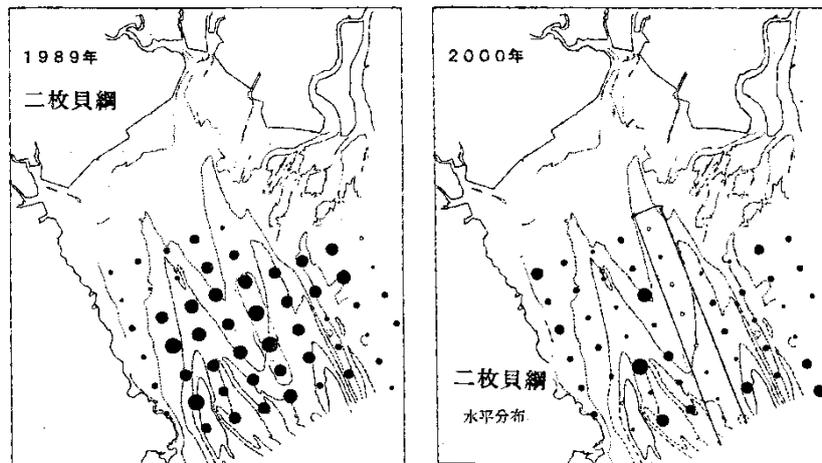


図1 平成26年度の底生生物の水平分布（上段：夏季 下段：冬季）



注) 右図の線で囲まれた部分が住之江川沖海底水道に該当する部分。

図2 有明海北西部におけるマクロベントス(うち二枚貝綱)の調査結果

出典:

- 1) 古賀秀昭(1991):有明海北西海域の底質及び底生生物, 佐賀県有明水産試験場研究報告, 13号, pp.57-79
- 2) 大隈斉, 江口泰蔵, 川原逸朗, 伊藤史郎(2001): 有明海湾奥部の底質及びマクロベントス, 佐賀県有明水産振興センター研究報告, 20号, pp.55-62